

最新作

看護師不足・職員の高齢化に悩む全国の病院へ向けたメッセージ

# て・あーてと福祉用具を活用したある地方病院の取り組み

全3巻

## 第一巻 患者の治る力を引き出す

～ て・あーてを実践する ～ 【19分】 ¥15,000(税別)



## 第二巻 福祉用具を活用し仲間が辞めない職場づくり

～ ある地方病院の取り組み ～ 【46分】 ¥18,000(税別)



## 第三巻 患者の生きる力を引き出す

～ て・あーて、福祉用具を活用した実践例 ～ 【45分】 ¥18,000(税別)



第1巻～3巻 全3枚組セット価格 **¥50,000(税別)**

### 監修者より

健和会臨床看護学研究所所長 日本赤十字看護大学名誉教授 **川嶋 みどり**

このビデオは、実践編としての優れた内容を持っていると同時に、私は多くの看護管理者の方達に是非見て欲しい。現場の中、今看護師たちが人手不足とか機械化とか高齢化とかどこでも言われているんですけども、そういった中で疲労困憊している看護集団を抱えて苦勞している方達がこの姿を見て、何かを感じて欲しい。何かを感じて現場で実行してくれたら、日本全国の病院が良くなるんじゃないかなと思います。(DVDの中より抜粋)

愛媛県立医療技術大学准教授 健和会補助器具センター前所長 **窪田 静**

寝たきり大国、二次障害大国であり続ける日本は、先進国唯一の福祉用具嫌いの国でもあります。福祉用具が患者から看護師の手を遠ざけるものではなく、より近くするものであること、看護を取り戻すのに不可欠であることを見事に証明してくれた実践です。

監修

健和会臨床看護学研究所所長  
日本赤十字看護大学名誉教授

**川嶋 みどり**

愛媛県立医療技術大学  
保健科学部看護学科 准教授  
健和会補助器具センター前所長  
**窪田 静**

協力

医療法人朝陽会 美須賀病院

対象

看護大学、短大、専門学校、病院内研修、  
看護師、作業療法士、理学療法士、その他

	MPEG2	片面1層ディスク 不許可複製	16:9	
--	-------	-------------------	------	--

企画  
制作  
発売

**東京シネ・ビデオ株式会社**

〒164-0001 東京都中野区中野2-13-21 パールミサト103  
TEL (03) 5342-5381 FAX (03) 5342-5384  
http://www.tokyocine-video.co.jp  
Mail: info@tokyocine-video.co.jp

(ご注文はFAXまたはメールにてお願い申し上げます)

# 患者さんがその人らしく、看護師が働きやすい病院を

## 【この映像を推薦します】

北海道医療大学名誉教授/新潟県立看護大学名誉教授  
中島 紀恵子先生

病に苦しむ身体が放射する生活、暮らし、人生、この「からだ」の苦楽に「触れて、震える手」の力が、看護師はじめケアにあたる者の仕事の源泉になる。これへの知と技は、学ぶ者のためまめ習練によって手にすることができる。美須賀病院看護チームの「て・あーて」の実践に続こう。

慶應義塾大学看護医療学部教授 太田 喜久子先生

て・あーての実践は、ケアの原点だと思います。現代の目まぐるしい医療の中で置き去りにしてきてしまったものを取り戻さなくてはなりません。

看護師のあたたかい手が触れることで、患者さんはからだも心も解きほぐされ、看護師も喜びを感じ、病院全体が生き生きと活動するようになるというすばらしい実例が勇気を与えてくれます。

聖路加国際大学大学院看護学研究科教授 菱沼 典子先生

看護はどこへ行ってしまうのか、そんな不安を覚える看護管理者の皆さん、ぜひご覧ください。生き生き働きたい看護師やリハビリの皆さん、そして基礎教育に携わる皆さん、私たちが向かうところを確認できる物語です。

福井大学医学部看護学科教授 酒井 明子先生

「て・あーて」を病院全体で取り組んだ看護実践改革モデルのDVDである。ケアを受ける側の声を聴き、手で感じて気づいたことを実践することで患者の笑顔が増え、生きる力を引き出し、看護師自身も看護を見つめ直すという相互作用から看護の意識が拡大していく姿に感動する。

一般社団法人 日本ノーリフト協会 代表理事 保田 淳子先生  
活動を始めて福祉用具は、腰痛予防だけでなく拘縮の軽減にもつながることを実感してきました。

新しいことに挑戦する際に、「時間がない。お金がない。人がいない。」と取り組む前から言い訳を探しがちですが、美須賀病院で実践されていることは、まさしくオーストラリアで聞いた「看護の文化を変えていく」一歩だと感じています。

聖路加国際大学大学院看護学研究科准教授  
大久保 暢子先生

この病院では、最先端の福祉用具と医療者の手が調和し、患者の生きる力が最大限引き出されていました。都会で最先端の看護をしていると思っていた私は、この病院で改めて患者にすべきことの本質を学びました！

森ノ宮医療大学保健医療学部理学療法学科教授  
上田 喜敏先生

患者さんの視点に立って手を差し伸べている素晴らしい病院スタッフの介助と福祉用具を積極的に使うことで入院患者さんと病院のスタッフの方々の安全(安全な介助)が図られたとても素晴らしい映像になっています。見られるとすぐに解ると思います。

合資会社オファーズ

生き活きサポートセンターうえるば高知 理学療法士 下元 佳子先生  
対象者の方の想いを聴き感じるとするという基本の姿勢と、そして何ができるのか何をしなければいけないのかをみんなで考える、そこにあたりまえに福祉用具が導入される。

基本姿勢から「チームアプローチ」の本来のあり方を学びました。

### はじめに

看護本来の姿は、患者の自然の回復過程を整え、苦痛の緩和を図ることです。このDVDでは、て・あーての技術や福祉用具を使い、患者さんのために何かをしたいと看護本来の姿を求め、ケアを行う姿が描かれています。

愛媛県今治市にある美須賀病院では、看護師不足や職員の高齢化といった課題を抱えていました。しかし、て・あーての技術や福祉用具を活用したケアを取り入れることにより、解決の糸口を見いだしています。

本DVDは、看護の原点を見直し、病院が患者さんにとっても働く職員にとっても良い環境となることを願い作成いたしました。

## 第1巻 患者の治る力を引き出す ～ て・あーてを実践する ～

約19分

愛媛県今治市にある美須賀病院では、今、臨床現場に川嶋みどり先生がすすめる「て・あーて」を導入しています。すると、症状が改善する人が出たり、コミュニケーションをとるのが難しかった人がとるようになるなどいろいろな効果があらわれ、患者さんの生きる力を引き出すことができました。スタッフは今、患者中心の手を使ったケアを大切にしようと日々のケアに取り組んでいます。



## 第2巻 福祉用具を活用し仲間が辞めない職場づくり ～ ある地方病院の取り組み ～

約38分

かつて美須賀病院は、地方の病院に新卒の看護師が来ないことや職員の高齢化により看護師不足に悩んでいました。そして、そのことが患者さんにも職員にも負担となっていました。しかし、臨床現場に福祉用具を導入することにより、力仕事から職員は開放されることで介護負担が減り、今まで、力任せの看護を請けていた患者さんは体のこわばりが緩み、症状の改善が見られるようになりました。今、この病院では、「腰痛を理由に退職する仲間を作らない、75歳まで元気で働こう」を目標に頑張っています。



## 第3巻 患者の生きる力を引き出す ～ て・あーて、福祉用具を活用した実践例 ～

約38分

「て・あーて」の技術や福祉用具を導入することにより、患者さんの「生きる力」を引き出します。ここでは、窪田先生のコメントとともに美須賀病院の実例を見ていきます。

### <登場する実例>

- ・脳出血で体を動かせなかった人が歩くことから生きる意欲を感じて
- ・オイルマッサージで浮腫が軽減
- ・背面開放座位保持具で意識の改善
- ・体の拘縮のある人がリフトを使うことで拘縮がとれる
- ・リフト歩行
- ・病院で福祉用具活用の有効性を学び在宅生活へ

